

肘水

肘水神社社報 平成23年1月発行

第15号



ご挨拶

射水神社宮司 松本正昭

平成二十三年の年頭にあたり、謹んで新年の賀詞を申し上げます。

昨年の夏は記録的な猛暑に悩まされましたが、秋の訪れとともに一転して寒気が訪れ寒さが身に沁みる日々でありました。幸いにして富山県内は台風・地震等の自然災害もなく、一応は、安堵の一年であつたように思います。

昨今の社会をみますと、我が国は悪いことをしてきたという自虐史観のもとに、過去の日本の歴史伝統を全て否定され続け、一切の価値観を経済に置き、経済だけが唯一の拠り所とし、その見通しが不透明になると、家庭内においても生きる目標・親子の絆までも、先行き不透明を招いているのが現況であります。外交面においても沖縄米軍基地問題に始まり、ロシアとの北方領土問題・中国との尖閣諸島問題、正に内憂外患の状況での平成二十三年の船出であります。

これから本気でこの国のことを考え直し、一人一人自らの認識を良い点も悪い点も正確に持ち直し、それを踏まえて、国家として又民族として出直す決心をしなければならぬ時期であります。

では、私達が国民として、日本民族としてどのような手を尽くさなければならぬだろうか、国家の意思として考えることであると同時に、我々、身近な先祖がどういう心掛けて何を考え此の国を作ってきたかを、もう一度思

い直してみることは、決して無駄ではなく大きな啓示を受けるに違いないという気がいたします。

歴史は繰り返すと申しますが、明治の御代の日本は、鎖国から開国へと踏み出し、世界の日本の日本として、欧米列国の取り巻く大海原へ船出した時代でありました。この船出は日本人としての自覚と誇りをもちつつも西洋諸国の良き面を取り入れようとする意欲に満ちた時代でもありました。しかし、日本は長い鎖国のため開国政策を推し進める過程で、国際法・条約の知識に欠けるところがあり、日米修好通商条約の不平等条項にも気づかず締結したのであります。

明治十八年に初代内閣総理大臣に就任した伊藤博文・外務大臣井上馨は不平等条約改正に奔走し、外国の意を迎えんとして極端な欧化政策を採りました。そして文明開化の名の下に鹿鳴館を建て、舞踏会を催し、西洋人の御機嫌取りに汲々とした状でありました。その反動による政府の緊縮財政によって国民が不景気に苦しむ中の政策に、国民だけでなく政府部内からも怒り沸騰し、条約改正交渉は打ち切れ、欧化政策は破綻したのですが、その反面、日本人の民族意識が高揚し、憲法制定作業に影響を与えることになりました。井上馨は外相を辞任し、そのあと伊藤は外相を兼任したが明治二十一年終に総理大臣を辞し、枢密院議長として憲法制定に

専念することとなりました。

憲法草案の任にあたつた伊藤は、ドイツで国法学者のグナイストやオーストリアでシュタインについて学び「法は民族精神の発露であり、日本人は日本の歴史によって日本自らの憲法を作れ」の教えの基に、又、伊藤の下にいた書記官長井上毅は日本の国史・古典について研究を重ね、その精神の基に憲法草案が起草し、かくて明治二十二年天皇陛下の裁可の後、二月十一日に明治憲法が發布されることになりました。この日は紀元節（建国記念日）で神武天皇が橿原の地に即位された日が物語るように神武創業の精神に基づいたものであります。

明治の御代は、多くの優れた人材が、国作りの理想と情熱に燃え、政治文化の興隆に尽くしました。幕末の志士により構築された維新の歴史の総括の上に立ち、明治憲法を打ち立て、日本が近代立憲君主国として世界に飛躍する基礎を築いたのであります。

歴史は命の継承の物語だと思えます。稽古照今という言葉がありますように、私達の祖先が残してくれた素晴らしい文化を今の社会に照らし、そこから生まれるエネルギーこそ日本の将来に繋がることであると確信しております。

皆さまにとりまして、平成二十三年が輝かしい佳き年となりますよう切にご祈念申しあげまして、年頭のご挨拶と致します。

第三回奉賛会研修旅行

平城遷都一三〇〇年祭

—古えの明日香・奈良の都を訪ねて—

奉賛会理事 松木 純一

朱雀門



射水神社奉賛会の恒例になりました研修旅行が、九月二十七日(月)二十八日(火)にかけて行われました。今回は七〇年に平城京に遷都されてから丁度一三〇〇年を迎えました奈良を訪ねました。二十七日午前七時に古城公園駐春橋前に集合し、松本宮司、炭

谷、武内両権禰宜、奉賛会理事役員、会員の方々が、総勢三十二名がバスに乗り、一路奈良に向かつて出発しました。幸いに天気にも恵まれて、途中三回程サーブスエリアを経由し、十二時すぎに奈良・橿原市に入り、昼食後、まず全員で橿原神宮に向き、参拝し、そのあと、明日香村に向かいました。明日香の地は平城京に都が移される以前、一〇〇〇年に渡り、当時都がおかれていた所です。特に五九三年に推古天皇(女帝)が即位され、聖徳太子が摂政として政務を司られてから天皇の親政が始まったとされております。聖徳太子は五七二年に誕生され、摂政になられたのが二十一才の時、そして四十九才で亡くなられるまでの約三十年の間に、その後の日本の法治国家としての礎を築かれ、派した。諸々の法整備や初めて中国に遣隋使を派

遣し、当時の先進の文化や文明を移入され、又奈良時代以後に花開く仏教文化の興隆に大いにつとめられました。



▲飛鳥寺

明日香村は現在戸数二〇〇〇戸、人口約六五〇〇人の農村ですが、当時の隆盛を誇った貴重な遺跡や寺院、又多くの埋蔵文化財が現存されており、まず最初に、石舞台古墳を訪ねました。この巨大な石古墳は五〇〇年代後半に当時政権を握っていた豪族蘇我馬子の墓ではないかといわれております。次に日本最古の飛鳥大仏があり、飛鳥寺を訪ねました。本尊の飛鳥大仏(釈迦如来坐像)の銅像は六〇〇九年前に造られた、今から一四〇〇年前の最古の仏像です。次に橘寺を訪ねました。この寺は聖徳太子がお生まれになった所で、この寺は聖徳太子の仏典等が保存されており、又当時の石造物で人の心の善悪二相を表わしたものとされる二面石が太子殿の横庭にありました。十六時頃から小雨も降ってきましたので、今日の宿泊地の奈良春日ホテルへと向かいました。十八時半頃から全員で会食、懇親会に移り、一同和やかな楽しい一時をすごしました。翌日は朝食後九時にホテルを出発し、近くの奈良公園内にある春日大社に正式参拝に出向きました。天気も朝方の小雨模様から青空がのぞき、清々しい



▲春日大社



▲橿原神宮

気分です春日大社の参道を進んで行きました。春日大社は一三〇〇年前に平城京ができたあと、日本の国の繁栄と国民の幸せを願って七六八年に造営されました。現在、春日造りの御本殿は国宝に指定されております。春日大社の神職の方の先導で全員で御本殿前で正式参拝をすませ、そのあと、神社の中をご案内頂き、最後に、国宝、重文等三〇〇〇点以上収蔵されている宝物殿を見学し、春日大社をあとにしました。十一時すぎに、「平城遷都一三〇〇年祭」のメイン会場に到着しました。会場は古えの平城京の跡に大極殿と朱雀門が復元され、広大な都の跡がしのばれました。各自自由に大極殿等を見学しましたが、特に当時の遣唐使船の实物大が復元され、又すぐ横の平城京歴史館では当時の状況を写したシアターが上映され、当時の都のくらし振りや文化、又遣唐使の航海での苦闘やその使命の大きさ等も伝わってきました。十三時すぎに、古えの奈良の都に思いをはせながらバスに乗り、途中奈良市内で遅めの昼食をとった後、一路高岡への帰路に着きました。十九時半頃に無事高岡に到着し、楽しい一泊二日の旅行を終えました。

社会に学ぶ十四歳の挑戦

七月五日～九日の五日間、高岡市立高陵中学校から四名のみなさんにご奉仕をして頂きました。

初日はたいへん緊張していたようですが、二日目以降は御守の頒布、結婚式や書道展の準備など、意欲的に取り組んでいました。短期間ではありましたが、神職や巫女の神明奉仕の姿や、実際に自身が体験・経験したことから社会の規律やいろいろなことを個々に感じてもらったのではないのでしょうか。

それでは、以下にみなさんの感想文をご紹介します。



活動を終えて

輪達 真紀子

初め、活動をする前は何をするのかとても気になっていました。なぜなら、神社はスーパーなどとはちがいで、商品を買うわけではないからです。しかし、実際活動してみると、他の事業所との共通点も見えてきました。毎朝、参拝者が来る前に掃除をしたり、会った人には笑顔であいさつをしたり、結婚式の会場の準備で細かいところにも気を配ったりというように、神社に來られる方をとても大切にしているのだなと思いました。

体験をして一番印象に残ったのは、御守の授与です。このときは来た人と直接話さなければいけないので、何度も練習しました。練習とはいえとても

難しく、どれが良いか尋ねられたらすぐに答えることができませんでした。でも巫女さんは慣れた様子で接しておられたし、私たちがやってみたときにも助け船を出してくださって、すごいと思いました。神社は、願い事がある人や、なにか解決したいことのある人もいらつしやるので、常に毅然とした態度でいるべきだと分かりました。

活動をして、来た人が気持ちよく帰ることができるようになろうとすることが大事だと思いました。

新たな体験

吉田 美香

私は、初めて巫女という職業を体験しました。最初は白衣や袴に興味をもつて体験をしただけでした。けれども、本当の巫女さんの仕事は、とても大変な裏方仕事だと知りました。

裏方の仕事には、御守の授与、いかこんぶ作り、御守の袋詰めなどいろいろありました。裏方の仕事の中で一番驚いたことは、いかこんぶづくりです。最初は、「いかこんぶ」というものがあると思っていました。しかし本当に「いか」「こんぶ」でした。「いか」と「こんぶ」はおめでたいものなのですが、鯛とは少し違っておめでたいものだと教えていただきました。ほかの人が知らない知識が増えてよかったと思います。御守の袋詰め作業は、百個

以上の御守を袋に詰めなければならず、集中

力がある仕事でした。

また朝礼に出させていだいたり



社での言葉遣いは「何円になります」が「何円の初穂料となります」など店とは違う言葉遣いで印象に残っています。

最初、戸惑いはありましたが、奉仕の心を学ばせていただいたと思います。これからも奉仕の心を忘れずしっかりと清掃などに取り組みたいです。

人の幸せ

北川 いずみ

私は「十四歳の挑戦」で、射水神社に五日間行っていました。白衣に袴と、巫女さんの格好をして活動しました。普段とは全く違うので動きにくいこともありましたが、気持ち引きしまりとても新鮮でした。

一番に残っているのは宮司さんのお話です。宮司さんは、「神社の神主・巫女は、参拝者と神様

とのパイプ役です。無の心でいることが大事です。」と話されました。神様に気持ちを伝えてあげるつなぎ役になっているということです。これを聞いて、とても責任あることだというのがよくわかりました。無の心になるというのは、決して簡単ではないと思います。でも、私も少しでもその心に近づけるようにして、神主さんたちのように、人の幸せを願えるような人になりたいと思いました。私の目標ができました。

将来自分が何になりたいかはまだよく分からないけれど、神社で学んだ礼儀・笑顔・あいさつなどは、忘れないようにして社会に出たときに生かしたいと思いました。御守の勉強や、神社ならではの接客は、初めてのことが多かったのですが、とても楽しかったです。ありがとうございました。



さんに行き巫女さんの仕事を体験させていただきました。この仕事をして感じたことは、とても大変な仕事だということです。普段私たちが見ている巫女さんの仕事は、お正月におみくじや御守などを売っている仕事くらいだと思います。しかし実際はそれだけが仕事ではなく、神社の前をそわじしたり御守を袋に詰めたりと、たくさんの仕事をありました。しかし大変な分、やりがいのある仕事でもあると私は感じました。

私は最初、神社の仕事とは何をするのか分からずとまどいがありました。しかし実際にお客様に御守などを頒布してみても、言葉使いや礼儀の難しさを学ばせていただきました。

私がこの五日間させていただいたことは、ほんの一部のことだと思いますが、その中で私はたくさん学ぶことができました。このことを社会に出たときにもちゃんと生かしたいです。いろいろ教えてくださった射水神社の皆さん、本当にありがとうございました。



巫女さんになつて

鮎谷 朱夏

私は「十四歳の挑戦」で、射水神社

平成二十三年 新年初祈禱のご案内

個人祈禱

一、厄年祓

本厄

四十二歳(男) 昭和四十五年生
三十三歳(女) 昭和五十四年生
二十五歳(男) 昭和六十二年生
十九歳(女) 平成五年生

前厄

四十一歳(男) 昭和四十六年生
三十二歳(女) 昭和五十五年生
二十四歳(男) 昭和六十三年生
十八歳(女) 平成六年生

後厄

四十三歳(男) 昭和四十四年生
三十四歳(女) 昭和五十三年生
二十六歳(男) 昭和六十一年生
二十歳(女) 平成四年生

一、祝事(男女)

還暦 六十一歳 昭和二十六年生

古稀 七十歳 昭和十七年生

喜寿 七十七歳 昭和十年生

傘寿 八十歳 昭和七年生

米寿 八十八歳 大正十三年生

一、商売繁昌祈願

一、家内安全祈願

一、合格祈願

一、初宮詣

一、安産祈願

一、その他緒祈願

◎初穂料 五千円より志
(但し厄年祓・祝事祈禱はお酒・鏡餅等お供え下さい)

団体参拝 ※事前にご予約下さい

一、職場安全・商売繁昌祈願等

◎初穂料 二万円より志(お酒二升をお供え下さい)

◆祈禱受付時間 元旦 午前〇時～午後五時／二日以降 午前九時～午後五時
お問い合わせ 社務所 電話0766(22)3104

越中の食彩

清都酒造場 清都康介

お酒Ⅱ日本酒か？

「お酒とは日本酒である」と考える世代はだんだん少なくなっています。今は角のハイボールがお酒の代名詞となつてゐるのかもしれない。

日本酒の販売量は昭和四十八年にピーク（九七五万石）に達して以来減り続け、平成二十一年には三分の一（三二二万石）にまで減つてしまいました（二石は一・八リ瓶百本分）。現在、ビールやワイン、ウイスキー、焼酎を含めた酒類全体で、日本酒はわずかに七・二％のシェアしかなくなつてしまいました。三千軒と言われた全国の酒蔵の数も、廃業が相次ぎ現在一千軒。残念ながらこれはまだまだ進行形の問題なのです。

何故、日本酒はここまで魅力がないのか、様々な方々に聞いてみました。『日本酒はおいしくない。深酔いする。悪酔いする。日本酒Ⅱ悪いというイメージ。日本酒は種類や銘柄が多すぎて選びにくい。日本酒は飲み方が微妙で難しい（冷？熱燗？ぬる燗？）。日本酒に合う料理が少ない（手頃な価格の居酒屋では唐揚げやフライドポテトが基本メニュー。日本酒には合わない）。他の酒類が増えた（手軽でおいしいビールや酎ハイなど）。居酒屋の飲み放題メニューなどで飲んだ『初めての日本酒』がおいしくな

かつた（↓二度と日本酒を飲みたくない）。若者の意見を聞いていない（保守的）。飲酒運転厳罰化など社会的流れ。そもそもアルコールを飲まなくなつた。』

日本酒は今、大変不人気で厳しい逆風下に置かれてあります。そして沢山の課題を突きつけられています。

他方、海外では日本料理はヘルシーだという認識が高まり少々過熱気味なほど和食店が増えています。同時に日本酒の人氣も高まり、輸出に力を入れている酒蔵も出てきています。

日本の食文化の中心はお米であり、そのエッセンスがお酒Ⅱ日本酒です。日本酒を何とかして守りたい！

でも、まずは『おいしいお酒』を造ることが蔵元の義務。今年の酒造りもがんばります。



杉玉（造り酒屋のシンボル）

神前結婚式

御神恩をいただき、幸おからん事を。

平成二十二年六月挙式の方々

中谷 充彦・久美子
萩布 容一郎・伊久子
川邊 一史・智子
松田 毅・和華那
平野 勝久・小従
永禮 美津夫・美和
杉木 祐也・洋子
谷西 洋祐・かおり
岡野 将広・愛美
熊野 太郎・暁子

平成二十二年七月挙式の方々

北山 昌克・有里
串田 吉広・史恵
中村 裕・一枝

平成二十二年八月挙式の方々

酒井 貢一・則子
見角 真之介・麻美

平成二十二年九月挙式の方々

林田 和也・あゆみ
牧野 健太郎・奈緒
伊元 慎悟・美緒
岩瀬 光祐・芙美
福留 隆夫・妙子
谷井 正和・寛子
山崎 雅史・泰子
水野 間悠哉・咲

平成二十二年十月挙式の方々

西田 有佑・華江
杉村 正人・朋子
掛川 徹・絢
山口 乃三・香
中川 賢治・綾子
矢後 武嗣・亜由美
中齊 祐樹・まち子
山崎 昇一・智子
槻尾 隆・里佳
佐伯 孝志・香織
高畑 浩一・優子
田子 雅信・美由紀
種田 稔也・榮美子
塚田 敦貴・外茂子
室崎 真琴・たか子
黒田 敏夫・玲恵子
小島 秀元・康子
東条 叙宏・美香
横山 雅彦・千歳

平成二十二年十一月挙式の方々

高畑 吉成・敦子
林 健太郎・則子
宮本 雅章・由香里
鶴井 俊宏・未央
濱木 明史・直子
竹原 正敏・香織

杜の景色

杜の景色（下半期）

- 6月30日 夏越大祓
- 7月1日 職場安全祈願祭
- 7月23日～25日 奉納書道展
- 7月10日 悪王子社秋祭
- 8月27日 諏訪社例祭
- 9月16日 秋季大祭
- 9月22日 日吉社秋祭
- 10月初旬～30日 七五三まつり
- 11月3日 明治祭
- 11月23日 新嘗祭
- 12月23日 天長祭
- 12月29日 師走大祓
- 12月31日 除夜祭

祝金婚奉告祭

高岡市在住の中川隆・喜美子御夫妻は昭和三十四年に当社で結婚式を挙げられたそうです。

今回、五十年の節目に当たり、射水の大神様に、これまで健康で仲睦まじく過ごしてこられたことに感謝を申し上げるとともに、今後もしもご加護を賜りますように、とお願ひされたそうです。

これまでの人生について、お互いに励まし合い、思いやりの心を以て過ごしてきました、とお話しをして下さいました。

衷心よりお祝いを申し上げます。



駐車場完成

五月から整備をして参りました駐車場が七月に完成致しました。駐車可能台数は二十四台です。

現代の車社会を鑑み、少しでも多くの車が駐車できるよう、また、参拝者のみなさまに清々しく参拝をして頂きたいという思いから整備を致しました。

今後、参拝者のみなさまには、参道付近ではなく、ぜひ今回整備を致しました「参拝者駐車場」をご利用頂きますようご案内を申し上げます。



編集後記

新年明けましておめでとうございます。平成二十三年が崇敬者みなさまにとって、表紙写真の朝日のごとく光り輝く年で有りますようご祈念申し上げます。

平成二十二年におきましては、初詣、春季例大祭を始めとする諸祭典、結婚式、奉賛会研修旅行、奉納書道展、十四歳の挑戦、駐車場整備、七五三詣など、とても社頭が賑わい、そして、崇敬者みなさまのご理解とご協力により、諸事業を実施できましたことに厚く御礼を申し上げます。

本年秋には、第三回観月祭を企画しております。今回も高岡市福岡町の洋遊会、富山県神社庁雅楽部等諸団体へ出演依頼をする予定です。当社の神職も雅楽部に所属しており、観月祭に出演を致します。

「雅楽」とは、平安時代中期である十世紀ごろ、中国や朝鮮半島から伝来した音楽に、わが国古来の音楽が融合した宮廷音楽のことです。みなさまを平安時代の「雅」の世界に誘えるよう日々研鑽を積んで参る所存でございます。どうぞご期待下さい。

発行 射水神社
発行所 〒931-0044 高岡市古城一
TEL (0766) 221-1304
FAX (0766) 221-3715
印刷所 キクラ印刷株式会社

参集殿通信

誓詞奉読

悠久の歴史にいだかれ
永久の愛をお誓いします



—うつくしの杜ブライダルフェアのご案内—

Utsukushi no mori Marriage story



「夫婦むすび」絵馬に祈りを込めて

平成22年10月挙式 高畑様ご夫妻

うつくしの杜、結婚式場

射水神社

〒933-0044 高岡市古城1番1号(高岡古城公園内)

射水フェスタ 2011

平成23年2月20日(日)

10:00~18:00

- ・模擬挙式&模擬披露宴
- ・ワンプレート試食
- ・会場コーディネート展示
- ・料理・引出物展示
- ・和装・洋装衣裳展示
- ・ネイルアート体験・ブライダル相談会

和装試着チャレンジ(要予約)

平成23年1月9日(日)

10:00~16:00 (5組限定)

婚礼相談会

平成23年1月10日(月・祝)・16日(日)

23日(日)・30日(日)

その他、随時婚礼相談を承っております。

お問合せ (0766) 22-0808

URL <http://www.imizujinja.or.jp>

Eメール jinja-k@mbs.sphere.ne.jp